

## ■ 選炭工場

地中から掘り出された石炭に混じる不純物を取り除き、品質別に選別する工場。初期の炭鉱では人の手によって行っていたましたが、後期になると水選機などの大型最先端機械を用いるようになりました。

## ■ 貯炭場(ホッパー)

貨車に石炭を積み込み、出荷する為の施設



築別坑 選炭工場(左)・貯炭場(右)



羽幌本坑 選炭工場(左)・貯炭場(右)

## ■ 運搬立坑



羽幌本坑 運搬立坑(中央)

昭和36年着工、昭和40年6月に完成しました。立坑上部に巻き上げ機を備えた日本で二ヶ所しかない珍しい運搬立坑です。総工費17億円。立坑は垂直に掘り下げた坑道のことで、基本的にエレベーターと同じです。建物の高さは地上40m、坑底まで地下512m。

フル稼働すると、1時間に炭車80両、約1,000トンの石炭が揚炭できました。また、人員は1回に50人が昇降でき、それまで本斜坑まで1時間かかったのが30分に短縮されました。

## ■ 坑口

立坑とは異なる斜坑入口です。ここから水平又は斜めに掘削し、炭層に至ります。貨車を巻き上げ機や電車で引き上げる方式でした。現在は入口をコンクリート等で密閉されています。



築別坑 築別本坑坑口



上羽幌坑 二坑本斜坑口

※本ページの写真は、当時のものです。

## ■ 羽幌炭鉱鉄道株式会社 社章



左右にあるのは作業用の「ツルハシ」で、羽幌(Haboro)の「H」を表しています。中央のウインググラスに似た模様は、線路の断面図を表しています。

### 羽幌炭鉱での 炭鉱・炭鉱・炭坑の 使い方

- ▶ 炭鉱 … 羽幌炭鉱の名称として使われています。
  - ▶ 炭鉱 … 鉱業所(事業所)を意味しています。
  - ▶ 炭坑 … 坑道(坑口)を意味しています。
- ※本パンフレットは、当時使用された名称で表記しています。

## 羽幌炭鉱とは

羽幌町の中心部から東に23km付近の山中に選炭工場や貯炭場(ホッパー)、集合住宅、発電所の煙突などの施設群が朽ち果てた状態で点在しています。国内有数の優良炭鉱とされながら1970(昭和45)年に突如閉山しました。最盛期には約1万3千人を数えた街の面影は消えつつあるが施設群には往年の記憶が刻み込まれています。

羽幌炭鉱は苫前炭田(南北35km、東西15km)の築別坑、羽幌本坑、上羽幌坑の3鉱区で構成されました。1940(昭和15)年に開業し羽幌炭鉱鉄道株式会社が経営していました。1961(昭和36)年には年間出炭量100万トンを超え、ピークの1968(昭和43)年には年間出炭量114万トンを採掘しました。旧国鉄や北海道電力などに出荷されました。

純度の高い良質な石炭は灰と煙の少ない家庭用暖房燃料としても重宝されました。1969(昭和44)年、転機は突然訪れ、全体の6割の出炭を占めた築別坑が断層にぶつかり、経営が悪化しました。国の石油へのエネルギー転換に伴う特別閉山措置法を受け、1970(昭和45)年11月に閉山しました。30年間の総出炭量は1,458万トン。3,000万トン以上の埋蔵量を残し、鉱山の灯は消えました。

## 羽幌炭鉱のあゆみ

- 1874年(明治 7年) アメリカの地質学者ライマン氏によつて調査
- 1888年(明治21年) 北海道庁 築別川炭層を調査
- 1939年(昭和14年) 太陽産業株式会社が築別炭鉱の開発に着手
- 1940年(昭和15年) 築別本坑(築別)が開坑し、採炭が始まる  
社線・羽幌炭鉱鉄道の工事に着手  
羽幌炭鉱鉄道株式会社設立
- 1941年(昭和16年) 国鉄羽幌線(羽幌～築別)及び羽幌炭鉱鉄道が開通
- 1947年(昭和22年) 二坑(上羽幌)が開坑
- 1949年(昭和24年) 羽幌本坑(三毛別)が開坑
- 1950年(昭和25年) 築別炭鉱で石炭産業で全国初の無期限ストが起る
- 1953年(昭和28年) 羽幌町の人口が2万人を超す
- 1954年(昭和29年) 大五ビル(札幌市大通り西5丁目)完成(8月)
- 1956年(昭和31年) 石炭年産50万トン達成
- 1957年(昭和32年) 高松宮ご夫婦が築別坑視察(7月)
- 1958年(昭和33年) 国鉄羽幌線(築別～遠別)が開通
- 1961年(昭和36年) 石炭年産100万トン達成
- 1962年(昭和37年) 国鉄名羽線起工式挙行  
羽幌本坑に第2選炭工場完成  
国鉄名羽線(曙～三毛別間3.9km)が完成(12月)
- 1964年(昭和39年) 羽幌町の人口が3万人を超す
- 1965年(昭和40年) 羽幌本坑に運搬立坑が完成(6月)
- 1968年(昭和43年) 石炭年産114万トン達成
- 1970年(昭和45年) 「会社更生法」「特別閉山措置法」を申請  
羽幌炭鉱鉄道株式会社閉山(11月2日)  
羽幌炭鉱鉄道廃止(築別炭鉱～築別間)(12月14日)
- 1981年(昭和56年) 国鉄名羽線工事が凍結(10月)

# 羽幌炭鉱探訪MAP

ヤマ  
隆盛を誇った炭鉱がここにある



北海道苫前郡羽幌町南町1番地の1  
TEL (0164) 62-6666  
羽幌町観光協会

# 羽幌炭砒探訪MAP



**炭砒アパート**  
昭和44年8月に2棟48戸、9月に2棟48戸が完成。近代的4階建て鉄筋コンクリートで水洗トイレ、グリーンとブルーの屋根、クリーム色の壁という当時としては洒落たデザインの建築



**太陽小学校**  
昭和15年開校し、35年には全校生徒1,065名。珍しい円形体育館は昭和37年に登場、42年に校舎が新築されたが、46年5月閉校、昭和57年から「緑の村」として宿泊等に利用されていました。



羽幌本坑坑口



上羽幌神社



索道貯炭場

北海道苫前郡羽幌町南町1番地の1  
TEL (0164) 62-6666  
**羽幌町観光協会**



**羽幌炭砒鉄道病院**  
昭和19年に病院としての形態が整い、昭和31年時には建坪1,458㎡、内科、外科、産婦人科、耳鼻科があり、病室14室、ベット数50、医師5名に看護婦等も含めて38名であった。昭和46年3月に閉院。



貯炭場(ホッパー)

## 築別炭砒

●築別炭砒消防団庁舎  
●築炭会館(映画室跡)  
●発電所  
●坑口浴場  
✧本斜坑口



右:貯炭場(ホッパー) 左:選炭工場

●北辰中学校 ※私有地につき、立ち入りはご遠慮下さい  
●旭ヶ丘小学校跡



運搬立坑



上羽幌小中学校跡

## 上羽幌炭砒

●坑口浴場  
✧二坑本斜坑口



第一橋梁(春水橋より)



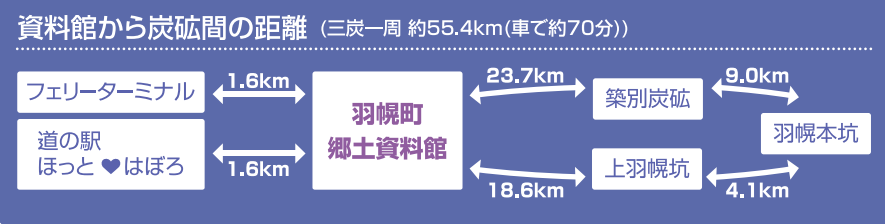
第二橋梁(鶴亀橋より)

橋から望む炭砒鉄道の橋梁  
石炭運搬のために、昭和15年に開始された鉄道敷設工事は、戦時下の鋼材不足のため困難をきわめ、中古の橋桁を集めました。このことから橋桁は不揃いとなっています。



第三橋梁(働使橋より)

補強時に1907年と1913年に製造された線路を使用した橋梁。



**羽幌町郷土資料館** (羽幌炭砒探訪のスタート地点)

羽幌簡易裁判所庁舎跡を改修して、平成元年5月1日に郷土資料館として開館しました。炭砒時代などの隆盛を伝える多くの資料、町内で発掘された貴重なアンモナイトなどの化石類や開拓期、ニシン漁などの資料1,700点余りが展示されています。炭砒の貴重な映像や写真もあり、ここで羽幌炭砒の知識を得て「羽幌炭砒探訪」のスタートとして下さい。

住所	羽幌町南町20番地
入館料	大人210円 高校生以下無料
開館時間	10:00-16:00
休館日	月曜日 (月曜が祝日の場合は翌開館日)
開館期間	5月1日~10月30日
電話	(0164)62-4519 (開館期間のみ)

※ 羽幌炭砒エリアの施設・遺構等は、老朽化に伴い建物内部、足場、及び外壁等も崩れやすく大変危険です。安全確保の為、大半の施設・遺構への入場はおやめ下さい。尚、探訪の際に事故や獣害等に遭われたとしても、当協会では一切の責任は負いかねますので、ご承知おき下さい。